



作品と調和した周囲の環境にとっても満足しています。

球技場という場所にふさわしく、スポーツの持つエネルギーや動きのある彫刻作品を考えました。作品全体がサッカープレー中の動きと試合運びの様子を表現しています。作品タイトル「PIM PAM POOM(ピン・パン・プーン)」もボールの音を表したものです。

また、この彫刻は日本をイメージしたのもでもあります。日本はとても近代的な国ですが、一方で多くの自然が残り、環境との関連性を強く持つ国でもあります。日本の光や自然を自由に表現すると、この彫刻のような色や形が生まれました。この作品で私の日本に対する好意を伝えたいと思っています。

パブリックアートは周辺環境に合うことがとても大切です。また美しいだけでなく利用することができたり、その空間でゆっくりできたり、人間のためのスペースであることが重要です。博多の森球技場は制作前に写真で見ただけですが、現地に来てみて想像以上に素晴らしい環境に驚きました。一方からは作品がよく鑑賞でき、その後ろには緑豊かな自然が広がっています。ちょうど人間と自然の間に作品が設置されているようで、作品と環境がとてもよく調和していると思います。この作品が永く福岡で愛される、文字通りのパブリック(市民)のためのアートになることを願っています。

福岡には短い滞在でしたが、まちなみが美しく、活気のあるまちと感じました。人々も親切でとても感謝しています。機会があれば、またぜひ訪れたいと思います。

彫刻のあるまちづくり ～博多の森球技場

「PIM PAM POOM」
作家インタビュー

「福岡市彫刻のあるまちづくり事業」の22番目の作品としてカラフルかつパワフルな「PIM PAM POOM」が博多区東平尾公園の博多の森球技場に設置されました。昨年10月に行われた除幕式のために作家のフェデリカ・マッタさんがフランスから来福。マッタさんに作品のコンセプトなどを伺いました。

フェデリカ・マッタ
Federica Matta

作家略歴

1955年 フランス、セーヌ市に生まれる
1985年 ギャラリーCremniter-Laffanour(パリ)にて個展
1989年 Cooper-Hewitt Museum(ニューヨーク)にて個展
1993年 "Art Attack"(Ariste against AIDS)展に出展(パリ)

DEAR MISTER KUWAHARA

I WANT TO THANK YOU
FOR THE WONDERFUL STAY
I HAD IN YOUR CITY
OF FUKUOKA
I AM VERY PROUD TO
HAVE DONE THE SCULPTURE
"PIM-PAM-POOM" AND TO
SEE HOW WELL IT FITS
WITH ITS SURROUNDING
IT IS REALLY PUBLIC ART
FOR THE PUBLIC
THANK YOU AGAIN
FOR YOUR HOSPITALITY
YOUR FRIEND

FEDERICA MATTÀ

マッタさんから市長あてに届いた手紙。
作品が環境と調和していることに
対する喜びが綴られています。

